



[第1章] NAAグループの 価値創造

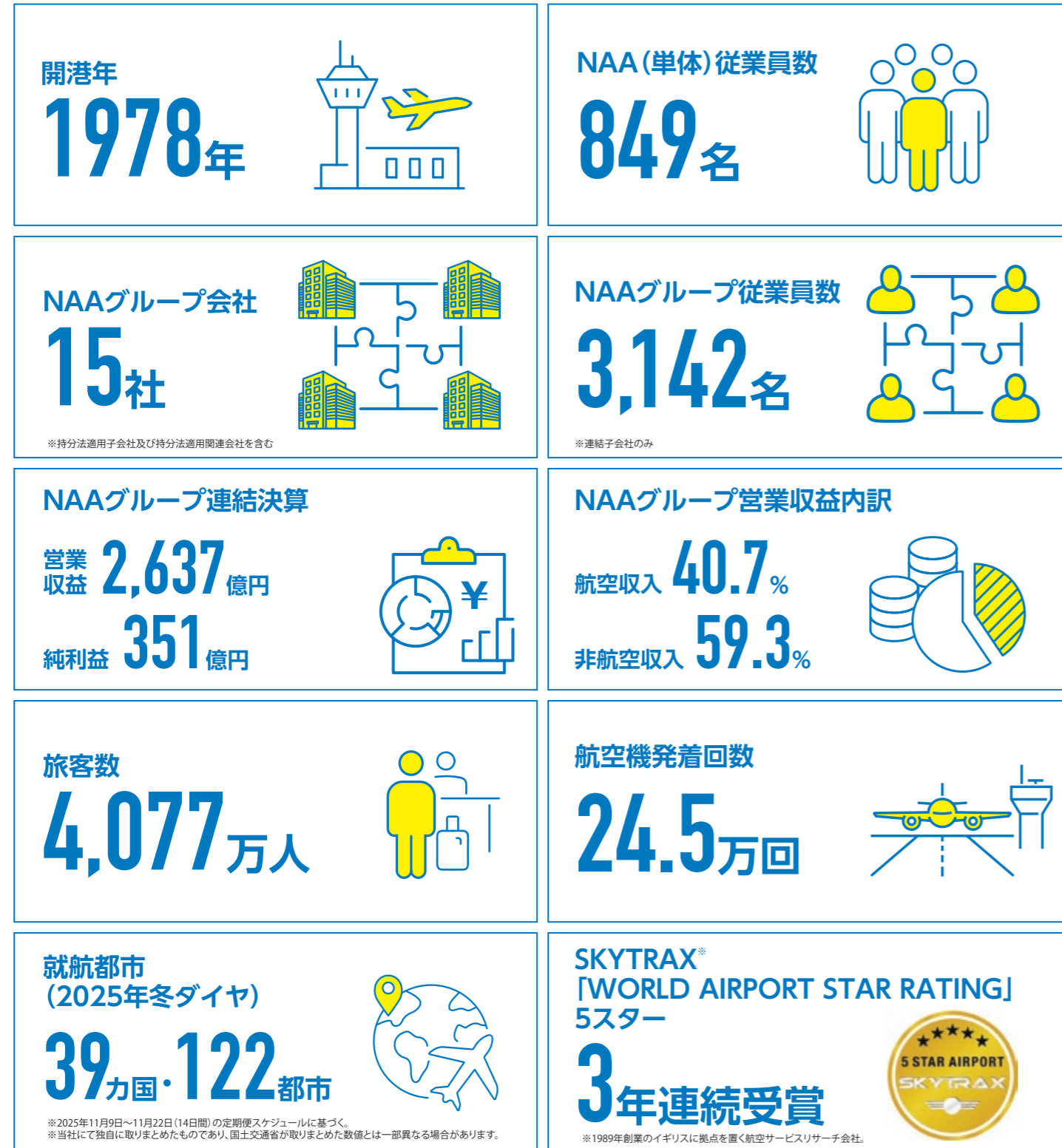
成田空港が開港してから今日に至るまで、
社会インフラとしての使命を胸に、どのように歩みを重ねてきたのかをご紹介します。

At a Glance	13
開港からの歩み	15
積み重ねてきた実績	17
成田空港の価値創造の基盤	19
成田空港の価値創造をともしするステークホルダー	21
価値創造プロセス	23
ESG視点と重点課題	25

At a Glance

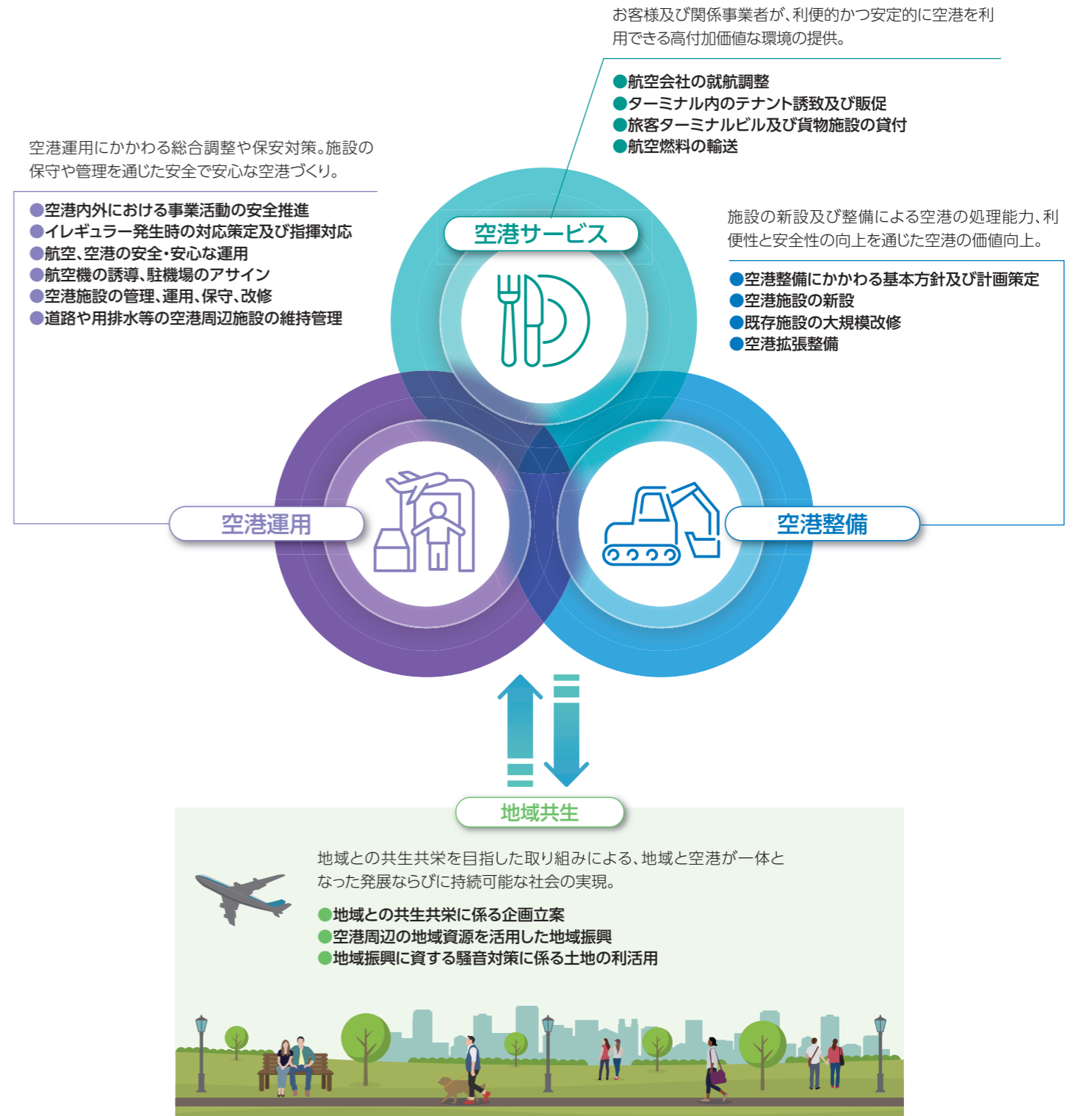
1966年に発足した新東京国際空港公団を前身とし、2004年に民営化した成田国際空港株式会社は、48年にわたり空港運営の高度化と地域との共生を追求しながら、日本と世界をつなぐ国際拠点空港という社会インフラとしての使命を果たしてきました。

Key Figure (2025年3月現在)



NAAグループの活動の全体像

15社からなるNAAグループを形成し、空港運営、施設管理、環境対策、地域振興など多岐にわたる領域で事業を展開しています。SKYTRAX社による5スター評価を3年連続で受賞するなど世界水準のサービス品質を誇り、39カ国・122都市とのネットワークを支える空港として、グローバルな競争力を高めています。空港の強みである広大な敷地、充実したインフラ、専門性の高い人材を活かし、周辺の地域・社会・産業とともに、持続可能で魅力ある空港づくりを進めています。



開港からの歩み

成田空港は、地域をはじめとするステークホルダーの皆様のご協力のもと、我が国の空の表玄関として、またアジアの国際拠点空港として、人々の往来やサプライチェーンを支え、日本経済の発展や文化の交流に貢献してきました。これからも成田空港は、グローバル化が進む社会において、日本だけでなく世界の持続可能な発展を下支えするために歩み続けます。

	～1990年	1990年～	2000年～	2010年～	2020年～
社会・外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 高度経済成長 ● 海外旅行ブーム 	<ul style="list-style-type: none"> ● バブル崩壊 ● グローバリゼーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア諸国経済成長 ● 世界的な空港建設と拡張 ● IT社会、テクノロジーの進展 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光立国政策 ● オープンスカイ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化や資源不足などの顕在化 ● 少子高齢化等の社会課題の深刻化 ● 新型コロナウイルスの蔓延
社会からのニーズ	首都圏空港の航空供給逼迫	経済低迷の一方でグローバル化による航空需要拡大	世界の中での日本	消費者が多様なサービスの中から選択する時代に	「モノ」から「コト」消費者の価値観が変化
NAAグループの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1旅客ターミナルビルオープン ● 4,000mA滑走路運用開始 ● 燃料輸送用パイプライン運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2旅客ターミナルビルオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2,500mB滑走路運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスジェット※ターミナルオープン ● 第3旅客(LCC)ターミナルビルオープン ● 「成田空港ユニバーサルデザイン基本計画」の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● サステナビリティ推進策の展開 ● 顔認証チェックインサービス「Face Express」導入
社会への価値提供	二つ目の首都圏空港としての機能を果たし、日本と世界の交流の基盤をつくることで日本の経済を下支え。		容量拡大を通じた航空ネットワークの拡充とハブ化による、アジア諸国における日本のプレゼンス向上に貢献。	「誰にとっても使いやすい空港づくり」を目指し、サービス品質やターミナル内施設・機能の実用性を向上。充実したサービスや選択肢の整備・提供により多様化するニーズへ対応。 <small>※企業・団体又は個人が商用目的で利用する航空機</small>	価値創造空港としてそれぞれの嗜好に応じた体験を提供。さらにサステナブルな航空輸送等の実現を通じて社会の持続可能性に貢献。

地域社会との取り組み

地域社会との取り組みについては、社会情勢・外部環境に関わらず成田空港の運営基盤となる重要な取り組みの一つです。成田空港はこれからも地域の一員として信頼関係を築きながら、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献する空港を目指します。

- 第1回円卓会議開催
- 成田空港地域共生委員会開催
- 「エコ・エアポート基本構想」策定
- 「地域と共生する空港づくり大綱」策定

- 「エコ・エアポート基本計画」策定
- 成田空港パスポート(N.PASS)発行開始

- 「成田空港の離着陸制限(カーフェュー)」の弾力的運用導入
- 年間発着枠30万回に合意
- 年間発着枠50万回に合意

- 地域産品ブランド「+NRT factory」設立
- プラスナリタラボ株式会社設立
- グリーンポート・エコ・アグリパークが「自然共生サイト」に認定

成田空港の価値創造の基盤

成田空港は、FSC(フルサービスキャリア)による世界各地への路線網に加え、LCC(ローコストキャリア)の拡充により、多様なニーズに応える利便性の高い選択肢をお客様に提供しています。

この広範なネットワークは旅客輸送だけでなく物流面でも高い機能を発揮し、サプライチェーンの安定化や高度化を支える重要な役割を果たしています。

こうしたネットワークを基盤として、成田空港は「誰もが利用しやすい移動機会の提供」によるヒトの往来の活性化、「高品質な貨物機能」によるモノの安定的な流通促進に貢献しています。

島国である日本と国際社会との接続を支える重要な基盤である“豊富な空のネットワーク”こそが成田空港の強みです。

当社はこの強みを活かし、交通・観光・物流など多様な領域で社会を支え、日本の経済発展を牽引する社会インフラとして価値創造に取り組んでいます。

“豊富な空のネットワーク”

豊富なネットワークが新たな路線を呼び込み、旅客数・貨物数の増加につながります。この旅客数・貨物数の集積が、より魅力的な空港環境づくりを促し、空港のサービス品質の向上につながります。

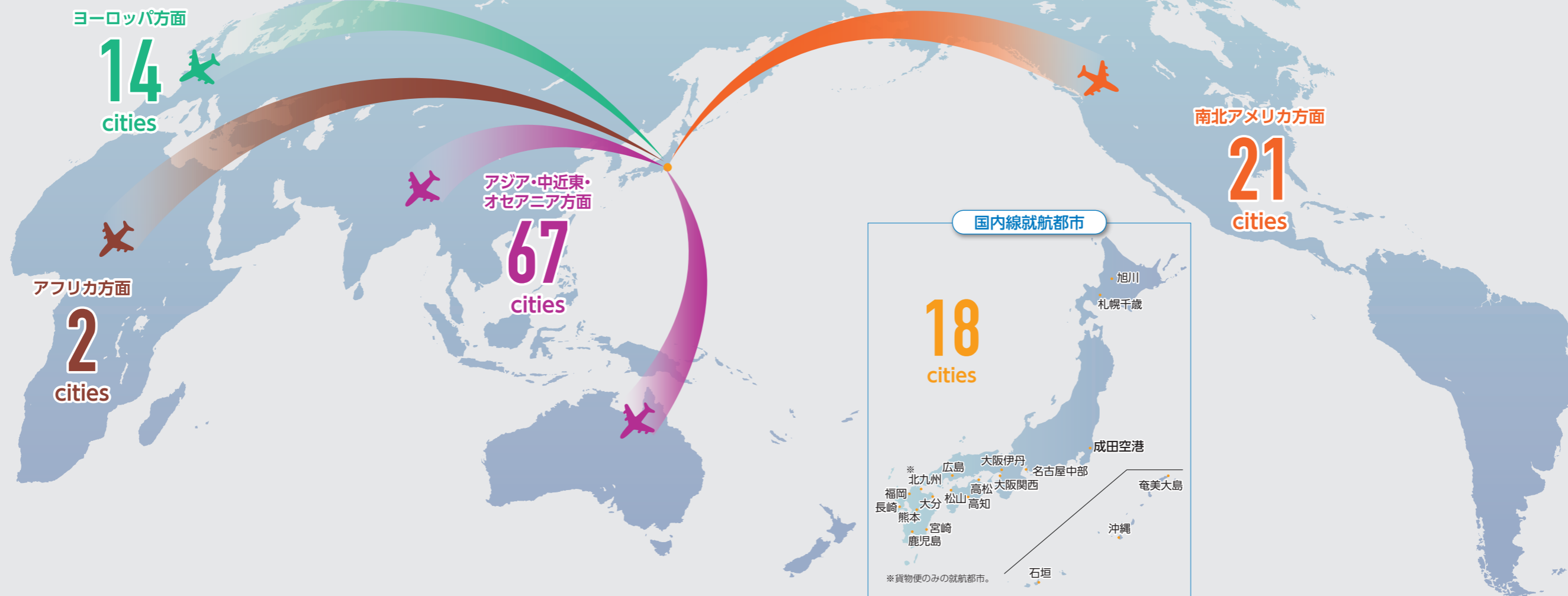
こうしたサービス品質の向上は、さらにお客様や事業者の皆様を惹きつけ、またそのネットワークの拡充を生み出します。

このように、豊富なネットワークが価値創造の循環を形成するとともに、成田空港の競争力の源泉となっています。

乗り入れ都市数 **39** カ国 **3** 地域 **122** 都市

(地域: 香港、マカオ、台湾)

※2025年11月9日～11月22日の定期便スケジュールに基づく。
※当社にて独自にとりまとめたものであり、国土交通省がとりまとめた数値とは一部異なる場合があります。



成田空港の価値創造をともにするステークホルダー

成田空港の日々の運営は、多様なステークホルダーとの信頼関係と協働によって支えられています。

NAAが維持・向上に努める成田空港の安全性・利便性・快適性・信頼性は、ステークホルダーの活動を支え、その成果が再び空港の価値を高めることで、空港とステークホルダー、ひいては社会全体の持続的な発展につながっています。

「ステークホルダーと目指す未来」は、P.33-34をご覧ください ▶



空港従業員・空港関係事業者
 安心して働き甲斐のある環境を基盤に、日々の運営品質を高めるプロフェッショナル
 従業員数
約3.6万人 ※2023年2月時点



社会全体
 国際交流と経済活動を通じて、社会と空港の双方向の発展を支える基盤
 ネットワーク
39カ国・122都市 ※2025年冬ダイヤ



航空旅客
 安全・快適な体験を享受し、空港のサービス向上の原動力となる利用者
約4,077万人 ※2024年度実績



地域
 空港とともに持続的に成長する存在
地域の経済成長・雇用創出への貢献



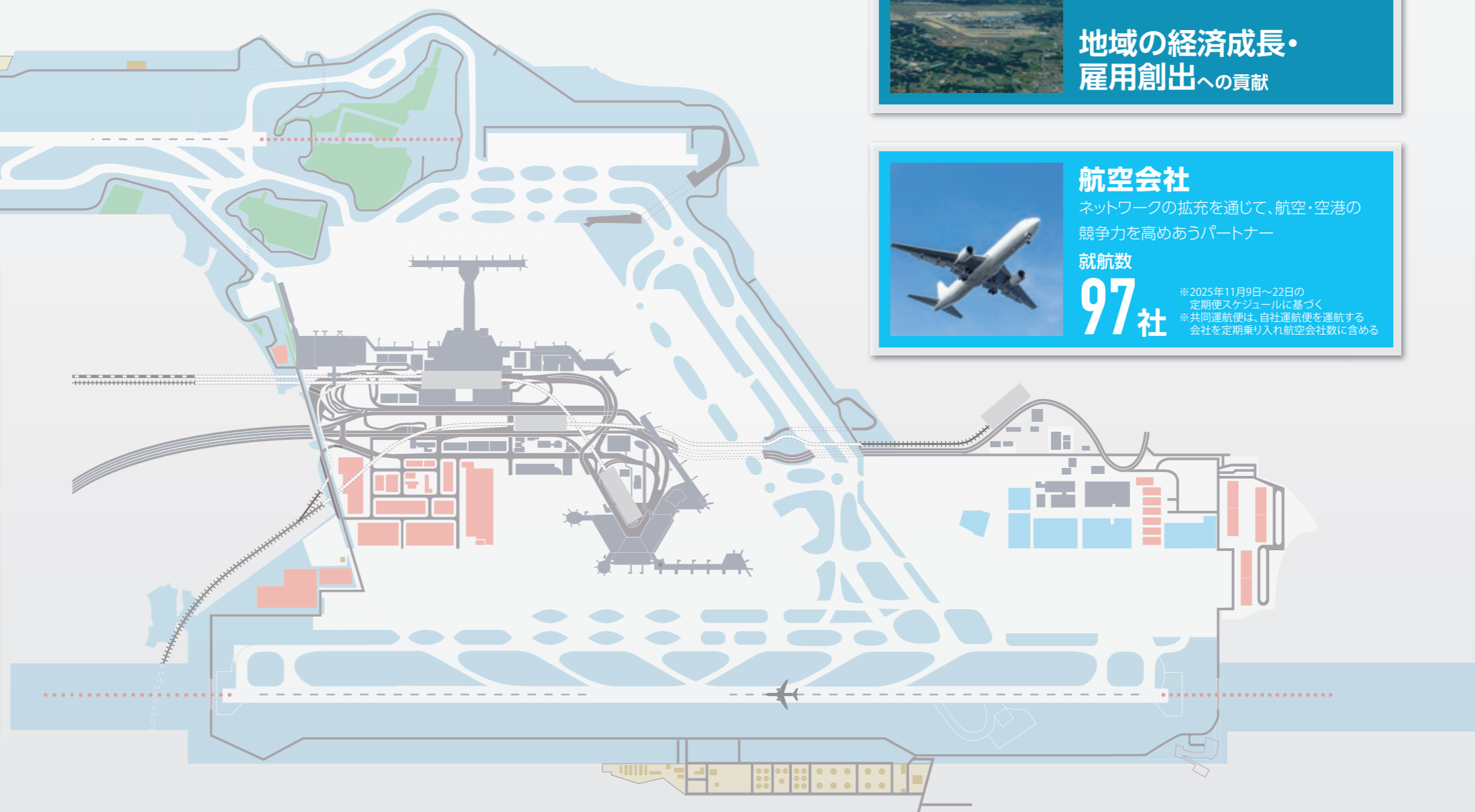
航空会社
 ネットワークの拡充を通じて、航空・空港の競争力を高めあうパートナー
 就航数
97社 ※2025年11月9日～22日の定期便スケジュールに基づく
 ※共同運航便は、自社運航便を運航する会社を定期乗り入れ航空会社数に含める



NAAグループ従業員
 挑戦と成長の機会を活かし、空港価値を創造する担い手
 従業員数
3,142人 ※2025年3月時点
 ※連結子会社のみ

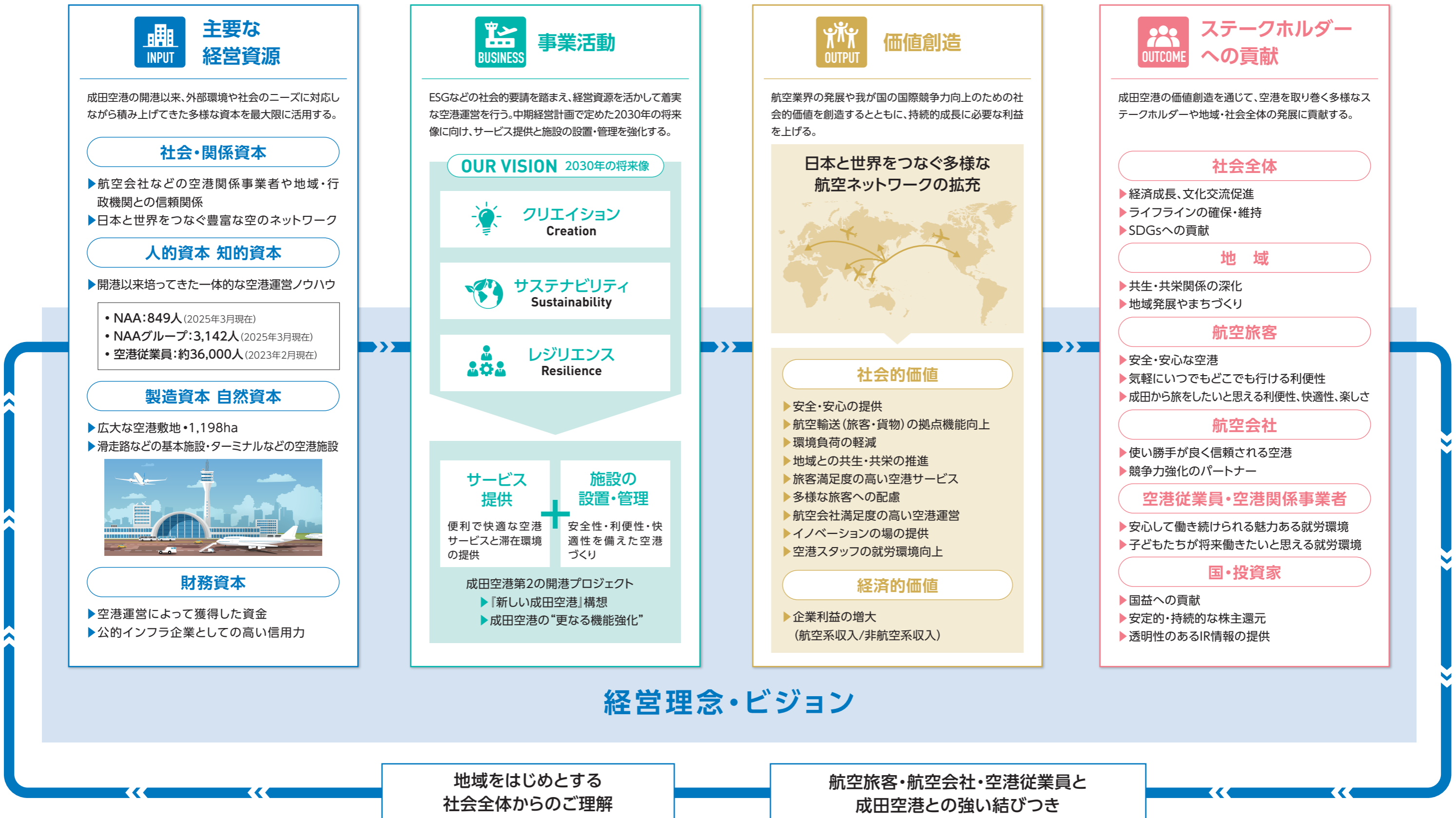


国・投資家
 公共性と収益性の長期的な両立を実現しあうステークホルダー
国際競争力・観光先進国への貢献



価値創造プロセス

NAAグループは、価値創造プロセスの循環を通じて空港内外のステークホルダーと連携しながら、人にも環境にもやさしく、旅をするお客様がわくわくし、空港従業員がいきいきと働ける「価値創造空港」を創り上げていきます。これにより、航空業界の発展や我が国の国際競争力の向上に貢献してまいります。



ESG視点と重点課題

航空業界は、テロ、戦争、感染症や経済不況などの幾多の困難を乗り越えて発展してきました。近年は、気候変動対応をはじめとするサステナビリティへの関心の急速な高まりや各種テクノロジーの進展により、大きな意識変化が求められています。

その一方で、国際間の往來の本格的な再開を経て、アジア太平洋地域を中心に中長期的には世界の航空需要がさらに増大していくことが見込まれています。こうした中、東アジアにおける巨大空港の建設や大規模拡張が進展しており、日本でも首都圏空港の機能強化が急務です。

このような背景から、NAAは、成田空港の持続的成長に向けて、ESG視点を踏まえた重点課題を設定しています。これらの重点課題について、具体的施策とそのKPIの設定、PDCAサイクルの構築を行うことで、成田空港の価値創造を推進しています。

成田空港を取り巻く外部環境

NAAにおいて特に重要なESG項目の評価

持続的成長に向けた重点課題

2025-2027 中期経営計画とのつながり

- 社会・経済**
- アジアの中間層の拡大
 - 観光立国の進展 (インバウンドの増加)
 - 国内人口のピークアウトと生産年齢人口の減少
 - ESG市場の拡大
 - ユニバーサルデザインの浸透
 - 世界人口の拡大
 - 国際情勢

- サステナビリティ意識の高まり (SDGs・ESG)

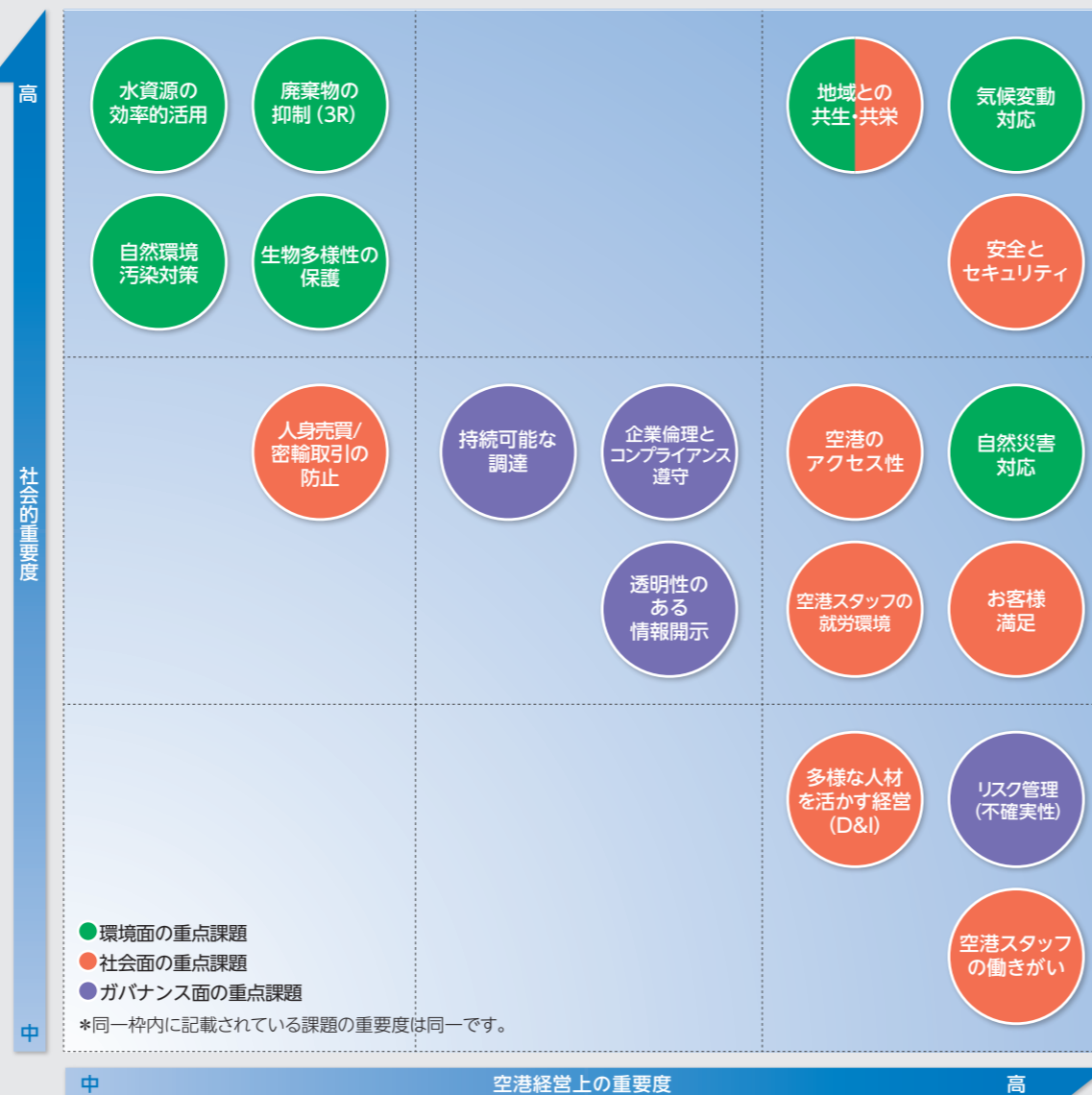
- 「プラットフォーム経済」から「データとアルゴリズムの深化」へ

- 環境**
- 地球環境に対する意識の高まり
 - CO₂削減目標の設定
 - 激甚災害の増加

- 水素技術の開発
- 再生可能エネルギー技術開発の進展

- 航空業界**
- 航空機の技術開発
 - 航空管制の技術開発
 - 空港間競争の激化
 - CORSIA※1の開始
 - SAF※2の普及

- 技術**
- 通信技術の進展
 - AI、IoT技術の進展
 - ドローン技術の進展
 - 自動運転技術の進展
 - MaaSの進展
 - 空飛ぶタクシーの登場



成田空港の持続的成長に向けたESG視点

	重点課題	SDGsとの関係
環境面 Environment	気候変動対応 環境保全活動	7 気候変動 9 産業とインフラ 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動
	地域との共生・共栄	3 健全な働き場 11 持続可能な都市とコミュニティ
社会面 Social	安全とセキュリティの強化	9 産業とインフラ 12 消費の持続可能性 13 気候変動
	お客様に選ばれる空港づくり	8 豊かさと成長 16 平和と公正
	空港全体での働きがいのある職場づくり	5 性別平等 8 豊かさと成長 10 公正な働き場
ガバナンス面 Governance	コンプライアンス遵守	16 平和と公正 17 パートナーシップ
	ガバナンスの徹底	16 平和と公正 17 パートナーシップ

クリエイション
Creation

「需要対応空港」から
「価値創造空港」への
進化

サステナビリティ
Sustainability

次世代に向けた
持続可能な
空港づくり

レジリエンス
Resilience

柔軟で強靱な
企業グループへの
変革

※1 CORSIA: Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation (国際航空のためのカーボンオフセット及び削減スキーム) 国際航空のためのCO₂排出量削減・取引の枠組みで、2021年以降CO₂排出量の増加を伴わない国際航空の成長を実現することを目的とする。
※2 SAF: Sustainable Aviation Fuel (持続可能な航空燃料)

※外部専門家レポート (ESG評価機関、NGO/NPO他) や海外他空港の公表資料、メディア記事などを分析し、空港運営上、特に重要な18のESG項目を特定しました。また、各ESG項目について、社会的重要度 (縦軸) を設定したうえで、社内における経営層及びESG施策担当部署の社員へのヒアリングに基づき、当社経営上の重要度 (横軸) を評価し、2軸にて整理しました。当該評価を基に、持続的成長に向けた重点課題をまとめました。